

住民アンケート調査 結果概要

平成30年12月21日

1. 調査概要・回答状況

■ 調査概要

【調査日時】

- ・平成30年11月5日（月）～平成30年11月26日（月）

【調査対象者】

- ・猪名川町在住の20歳以上の町民

【調査方法】

- ・住民基本台帳から無作為抽出による郵送配布・郵送回収（6ヶ月以上在住者対象、地区別・年代別・性別に猪名川町の人口構成に応じて均等抽出）

【調査規模】

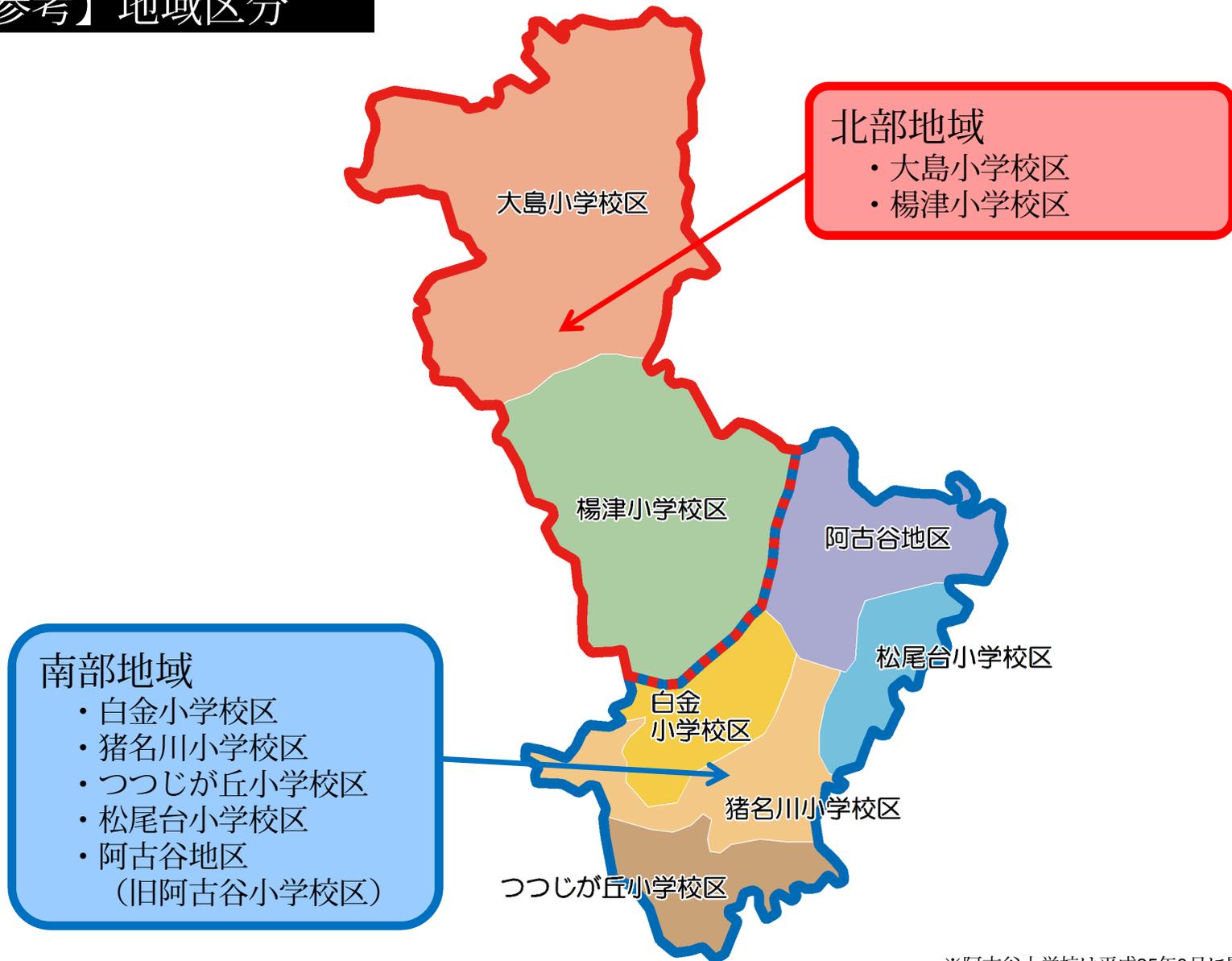
- ・猪名川町全域で1,500部郵送、以下に示す地域ごとに750部郵送
 - ・北部地域 大島小学校区、楊津小学校区)
 - ・南部地域 白金小学校区、猪名川小学校区、つつしが丘小学校区、松尾台小学校区、阿古谷地区(旧阿古谷小学校区))

【調査項目】

- ① 普段の外出状況について
- ② 猪名川町内のバス（路線バス（阪急バス）やコミュニティバス「ふれあいバス」）の利用状況
- ③ 公共交通の税負担に関する意識について
- ④ 将来における外出について
- ⑤ 道の駅いながわ機能拡大プロジェクトについて
- ⑥ 個人属性の把握

1. 調査概要・回答状況

【参考】地域区分



※阿古谷小学校は平成25年3月に閉校
(平成25年4月に松尾台小学校と統合)

1. 調査概要・回答状況

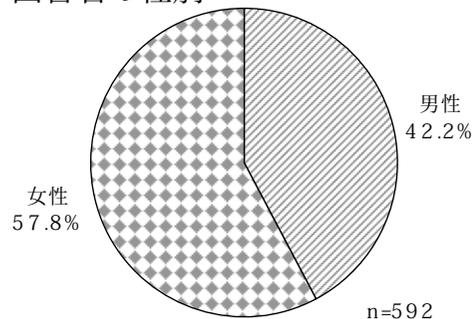
回答状況

- 回答部数は603票、回答率は40.2%である。
- 回答者の平均年齢は61歳であり、高齢者及び10年以内に高齢者となる世代の割合が高いアンケートデータである。

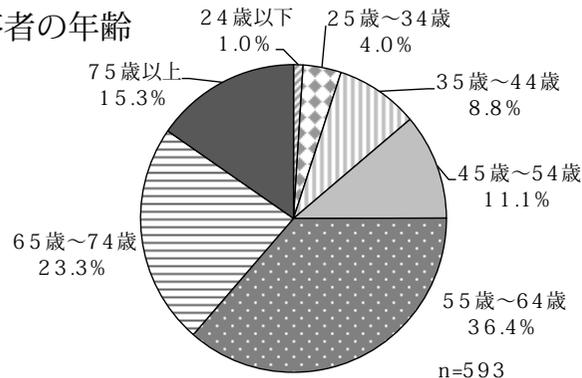
● 猪名川町の人口構成に対する回答部数

	猪名川町 性別・年齢別・地区別人口 (平成30年10月末現在)									住民アンケート回答者の状況								住民アンケート回答者が猪名川町人口に占める割合										
	男性				女性				計	男性				女性				未回答	回答部数合計	男性				女性				計
	20~54歳	55~64歳	65~74歳	75歳以上	20~54歳	55~64歳	65~74歳	75歳以上		20~54歳	55~64歳	65~74歳	75歳以上	20~54歳	55~64歳	65~74歳	75歳以上			20~54歳	55~64歳	65~74歳	75歳以上					
大島小学校	283	120	152	139	285	115	153	195	1,442	14	20	20	5	21	32	19	5	1	137	4.9%	16.7%	13.2%	3.6%	7.4%	27.8%	12.4%	2.6%	9.5%
楊津小学校	448	209	271	160	438	218	235	245	2,224	12	19	12	10	18	33	14	23	0	141	2.7%	9.1%	4.4%	6.3%	4.1%	15.1%	6.0%	9.4%	6.3%
阿古谷地区	154	60	89	75	156	63	102	110	809	3	8	8	0	6	11	6	9	0	51	1.9%	13.3%	9.0%	0.0%	3.8%	17.5%	5.9%	8.2%	6.3%
松尾台小学校	1,076	503	774	642	1,251	620	914	869	6,649	7	10	6	3	10	10	4	5	0	55	0.7%	2.0%	0.8%	0.5%	0.8%	1.6%	0.4%	0.6%	0.8%
猪名川小学校	1,014	416	489	280	1,138	499	460	394	4,690	8	12	12	1	12	13	7	8	1	74	0.8%	2.9%	2.5%	0.4%	1.1%	2.6%	1.5%	2.0%	1.6%
白金小学校	1,462	427	373	216	1,593	464	355	299	5,189	4	10	10	3	17	12	5	2	0	63	0.3%	2.3%	2.7%	1.4%	1.1%	2.6%	1.4%	0.7%	1.2%
つつじが丘小学校	1,420	250	237	138	1,471	248	250	187	4,201	2	12	7	2	5	10	5	6	0	49	0.1%	4.8%	3.0%	1.4%	0.3%	4.0%	2.0%	3.2%	1.2%
未回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	3	1	1	4	0	2	7	10	33	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	5,857	1,985	2,385	1,650	6,332	2,227	2,469	2,299	25,204	55	94	76	25	93	121	62	65	12	603	-	-	-	-	-	-	-	-	-
割合	23%	8%	9%	7%	25%	9%	10%	9%	100%	9%	16%	13%	4%	15%	20%	10%	11%	2%	100%	0.9%	4.7%	3.2%	1.5%	1.5%	5.4%	2.5%	2.8%	2.4%
	47%				53%					41%				57%														

● 回答者の性別



● 回答者の年齢



【サンプル数の見方について】
 ・基数となるべき実数は「n」（回答者数）、複数回答が可能な設問では総回答数を「N」としている。

※ 表示桁数の関係により、計算値が一致しないことがある

2. 回答者属性

■ 回答者属性

- ① 普段の外出頻度を年齢別に見ると、「ほぼ毎日」外出する方は20～54歳が約78%に対して、65～74歳が約44%、75歳以上が約19%と低い。
- ② 自動車等の保有状況を年齢別に見ると、「自動車（自分で運転する）」は65～74歳の方の割合も高く、「持っていない」は75歳以上で約46%を占める。
- ③ 同居人の状況を年齢別に見ると、「未就学児と同居」や「小学生と同居」は20～54歳の方（子育て世代）が多く、「一人暮らし」の方は75歳以上の方が多い。

① 外出頻度（年齢別）

	ほぼ毎日	週に3～4日	週に1～2日程度	月に1～2日程度	月に1日未満	計
全体 (n=587)	59%	23%	14%	3%	1%	100%
20～54歳 (n=147)	78%	14%	7%	1%	0%	100%
55～64歳 (n=216)	72%	18%	8%	1%	1%	100%
65～74歳 (n=135)	44%	36%	19%	1%	0%	100%
75歳以上 (n=88)	19%	33%	34%	13%	1%	100%

③ 同居人の状況（年齢別）

	未就学児と同居	小学生と同居	移動が困難な家族と同居	一人暮らし	いずれにも該当しない	計
全体 (N=603, n=576)	8%	8%	11%	19%	59%	105%
20～54歳 (N=163, n=145)	23%	23%	12%	12%	42%	112%
55～64歳 (N=216, n=213)	3%	2%	11%	10%	75%	101%
65～74歳 (N=139, n=133)	3%	5%	12%	24%	61%	105%
75歳以上 (N=84, n=84)	2%	1%	10%	44%	43%	100%

※複数回答（同居人の状況）

② 自動車等の保有状況（年齢別）

	自動車自分で運転する)	自動車家族が運転する)	自動二輪原付	自転車	その他	持っていない	計
全体 (N=807, n=587)	78%	22%	11%	15%	1%	10%	137%
20～54歳 (N=229, n=148)	89%	30%	11%	22%	0%	3%	155%
55～64歳 (N=311, n=215)	89%	22%	13%	17%	0%	3%	145%
65～74歳 (N=171, n=138)	76%	20%	10%	9%	1%	7%	124%
75歳以上 (N=94, n=85)	36%	13%	5%	8%	2%	46%	111%

※複数回答（自動車等の保有状況）

※表示桁数の関係により、計算値が一致しないことがある

3. 普段の外出状況

平日の外出状況 (1/2)

- ① 外出目的を年齢別に見ると、「通勤・通学」は20～54歳が約51%、「買い物」は65～74歳が約57%を占める。
- ② 主な外出先を見ると、「猪名川町内」が約71%を占める。内訳をみると、「イオンモール猪名川」が約38%と最も多く、次いで「日生中央サピエ」が約22%を占める。町外は大阪市、川西市の順でともに10%未満である。
- ③ 外出目的を主な外出先別に見ると、「イオンモール猪名川」や「日生中央サピエ」では買い物の割合が高く、町外の「大阪市」や「川西市」では通勤・通学の割合が高い。

① 外出目的 (年齢別)

	通勤・通学	買い物	通院	娯楽・レジャー	その他	計
全体 (n=590)	34%	44%	8%	7%	7%	100%
20～54歳 (n=144)	51%	35%	2%	8%	4%	100%
55～64歳 (n=213)	47%	38%	2%	5%	7%	100%
65～74歳 (n=136)	16%	57%	11%	10%	6%	100%
75歳以上 (n=87)	3%	48%	25%	7%	16%	100%

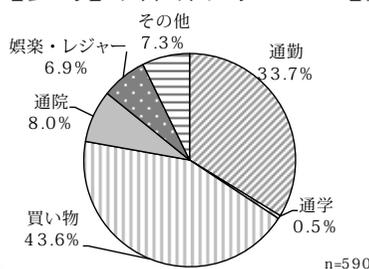
② 主な外出先の内訳

主な外出先	回答数	割合
猪名川町内	423	71%
イオンモール猪名川	226	38%
日生中央サピエ	130	22%
その他猪名川町内	67	11%
近隣市町	63	11%
川西市	42	7%
三田市	8	1%
宝塚市	7	1%
大阪府能勢町	5	1%
近隣市町 (未回答)	1	0%
その他兵庫県内	33	6%
伊丹市	11	2%
尼崎市	10	2%
神戸市	9	2%
西宮市	1	0%
その他兵庫県内 (未回答)	2	0%
その他大阪府内	70	12%
大阪市	44	7%
豊中市	7	1%
池田市	6	1%
豊能町	1	0%
その他大阪府内	10	2%
その他大阪府内 (未回答)	2	0%
その他府県	6	1%
計	595	100%

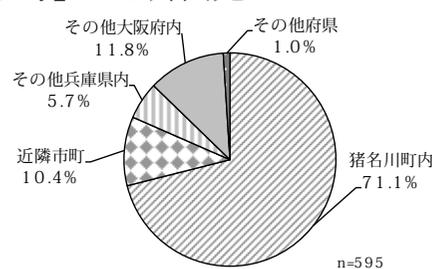
③ 外出目的 (主な外出先別)

	通勤・通学	買い物	通院	娯楽・レジャー	その他	計	
全体 (n=590)	34%	44%	8%	7%	7%	100%	
猪名川町内	イオンモール猪名川 (n=224)	13%	70%	5%	8%	4%	100%
	日生中央サピエ (n=129)	12%	61%	15%	8%	5%	100%
	その他猪名川町内 (n=67)	39%	13%	15%	10%	22%	100%
近隣市町	川西市 (n=42)	45%	19%	14%	2%	19%	100%
大阪府内	大阪市 (n=44)	98%	0%	0%	2%	0%	100%

【参考】外出目的



【参考】主な外出先



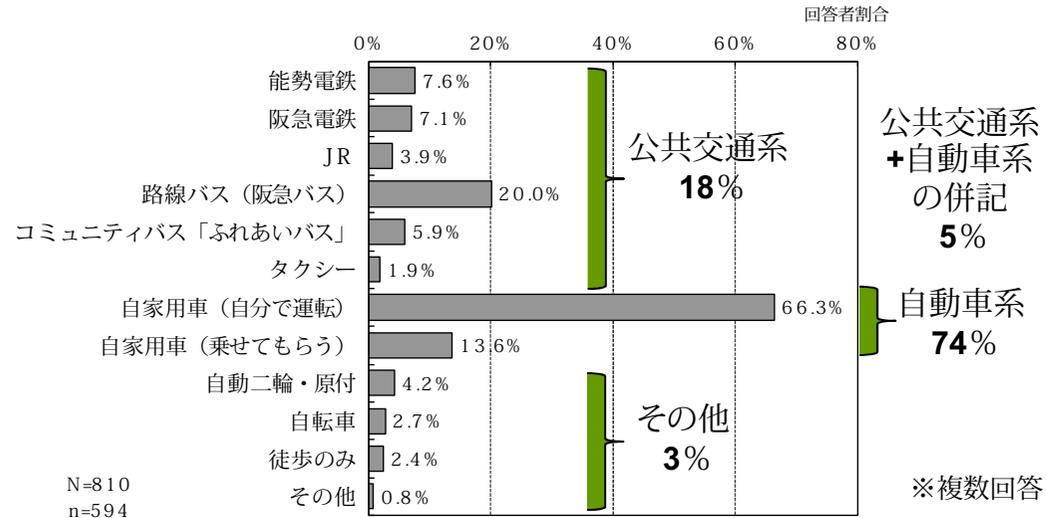
※表示桁数の関係により、計算値が一致しないことがある

3. 普段の外出状況

平日の外出状況 (2/2)

- ① 外出先への交通手段を見ると、自動車系（自家用車（自分で運転+乗せてもらう））が約74%、公共交通系が約18%を占める。
- ② 外出先への交通手段を主な外出先別に見ると、猪名川町内は約60%～約91%が自動車による移動で、川西市は自動車が約73%を占める。大阪市は公共交通が約59%を占める。

① 外出先への交通手段



② 外出先への交通手段 (主な外出先別)

	能勢電鉄	阪急電鉄	JR	路線バス (阪急バス)	コミュニティバス「ふれあいバス」	タクシー	自家用車 (自分で運転)	自家用車 (乗せてもらう)
全体 (N=810, n=594)	8%	7%	4%	20%	6%	2%	66%	14%
猪名川町内	イオンモール猪名川 (N=283, n=185)	0%	0%	17%	7%	3%	92%	19%
	日生中央サピエ (N=158, n=77)	0%	0%	55%	22%	6%	84%	26%
	その他猪名川町内 (N=78, n=61)	0%	0%	0%	5%	5%	2%	82%
猪名川町外	川西市 (N=56, n=41)	22%	5%	0%	20%	2%	71%	12%
	大阪市 (N=108, n=44)	52%	61%	32%	45%	2%	0%	39%

	自動二輪・原付	自転車	徒歩のみ	その他	総計	自動車系	公共交通系	公共交通系 + 自動車系 (乗せてもらう) の併記	その他	
全体 (N=810, n=594)	4%	3%	2%	1%	136%	74%	18%	5%	3%	
猪名川町内	イオンモール猪名川 (N=283, n=185)	5%	5%	5%	1%	153%	82%	9%	5%	5%
	日生中央サピエ (N=158, n=77)	3%	5%	4%	0%	205%	60%	29%	8%	3%
	その他猪名川町内 (N=78, n=61)	5%	3%	2%	3%	128%	91%	5%	3%	2%
猪名川町外	川西市 (N=56, n=41)	2%	0%	0%	2%	137%	73%	17%	7%	2%
	大阪市 (N=108, n=44)	9%	0%	0%	0%	245%	39%	59%	2%	0%

※複数回答 (外出先への交通手段)

※表示桁数の関係により、計算値が一致しないことがある

3. 普段の外出状況

■ 休日の外出状況 (1/2)

- ① 外出目的を年齢別に見ると、「買い物」の外出が各世代において最も多く占める。
- ② 主な外出先を見ると、「猪名川町内」が約69%を占める。内訳をみると、「イオンモール猪名川」が約41%と最も多く、次いで「日生中央サピエ」が約20%を占める。町外は川西市、三田市、大阪市の順でともに10%未満である。
- ③ 外出目的を主な外出先別に見ると、「イオンモール猪名川」や「日生中央サピエ」では買い物の割合が高く、町外の「川西市」、「三田市」や「大阪市」でも買い物の割合が高い。

① 外出目的 (年齢別)

	通勤・通学	買い物	通院	娯楽・レジャー	その他	計
全体 (n=561)	6%	62%	2%	20%	10%	100%
20~54歳 (n=141)	10%	60%	1%	23%	6%	100%
55~64歳 (n=208)	6%	65%	0%	17%	11%	100%
65~74歳 (n=129)	3%	59%	2%	27%	9%	100%
75歳以上 (n=75)	1%	57%	11%	16%	15%	100%

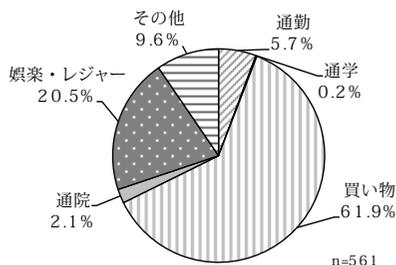
② 主な外出先の内訳

主な外出先	回答数	割合
猪名川町内	389	69%
イオンモール猪名川	233	41%
日生中央サピエ	113	20%
その他猪名川町内	43	8%
近隣市町	109	19%
川西市	50	9%
三田市	28	5%
宝塚市	10	2%
篠山市	9	2%
大阪府能勢町	6	1%
隣接市町 (未回答)	6	1%
その他兵庫県内	22	4%
神戸市	9	2%
伊丹市	7	1%
尼崎市	2	0%
その他兵庫県内	4	1%
その他大阪府内	38	7%
大阪市	28	5%
豊中市	2	0%
箕面市	2	0%
豊能町	1	0%
その他大阪府内	2	0%
その他大阪府内 (未回答)	3	1%
その他府県 (未回答)	7	1%
計	565	100%

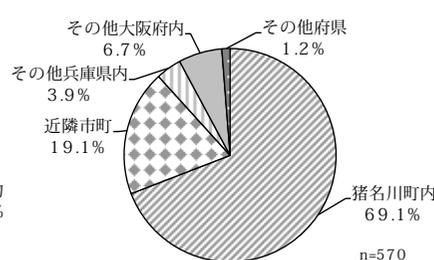
③ 外出目的 (主な外出先別)

	通勤・通学	買い物	通院	娯楽・レジャー	その他	計	
全体 (n=561)	6%	62%	2%	20%	10%	100%	
猪名川町内	イオンモール猪名川 (n=231)	3%	77%	1%	12%	6%	100%
	日生中央サピエ (n=110)	2%	78%	5%	9%	5%	100%
	その他猪名川町内 (n=42)	5%	33%	2%	26%	33%	100%
近隣市町	川西市 (n=49)	10%	39%	2%	33%	16%	100%
	三田市 (n=27)	4%	56%	0%	33%	7%	100%
大阪府内	大阪市 (n=28)	18%	43%	0%	32%	7%	100%

【参考】 外出目的



【参考】 主な外出先



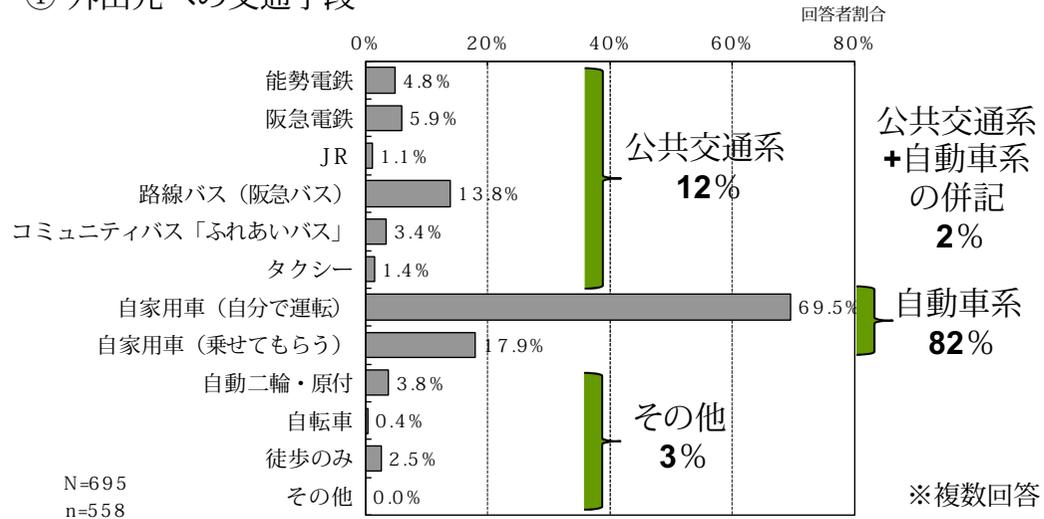
※表示桁数の関係により、計算値が一致しないことがある

3. 普段の外出状況

■ 休日の外出状況 (2/2)

- ① 外出先への交通手段を見ると、自動車系（自家用車（自分で運転+乗せてもらう））が約82%、公共交通系が約12%を占め、自動車系の分担率が平日よりも高い。
- ② 外出先への交通手段を主な外出先別に見ると、猪名川町内は約63%～約93%が自動車による移動で、町外では、川西市、三田市、大阪市ともに、自動車による移動が多く占める。

① 外出先への交通手段



② 外出先への交通手段 (主な外出先別)

	能勢電鉄	阪急電鉄	JR	路線バス (阪急バス)	コミュニティバス「ふれあいバス」	タクシー	自家用車 (自分で運転)	自家用車 (乗せてもらう)
全体 N=695, n=558)	5%	6%	1%	14%	3%	1%	70%	18%
猪名川町内	イオンモール猪名川 N=269, n=194)	0%	0%	14%	3%	1%	91%	20%
	日生中央サピエ N=124, n=74)	0%	0%	34%	12%	5%	70%	30%
	その他猪名川町内 N=47, n=40)	0%	0%	0%	5%	3%	80%	23%
猪名川町外	川西市 N=68, n=50)	18%	10%	0%	14%	2%	74%	14%
	三田市 N=29, n=28)	0%	0%	0%	0%	0%	68%	36%
	大阪市 N=63, n=28)	39%	68%	11%	32%	4%	57%	7%

	自動二輪・原付	自転車	徒歩のみ	その他	総計	自動車系	公共交通系	公共交通系+自動車系 (乗せてもらう)の併記	その他
全体 N=695, n=558)	4%	0%	3%	0%	125%	82%	12%	2%	3%
猪名川町内	イオンモール猪名川 N=269, n=194)	7%	0%	3%	0%	139%	87%	9%	3%
	日生中央サピエ N=124, n=74)	5%	1%	9%	0%	168%	63%	22%	10%
	その他猪名川町内 N=47, n=40)	3%	3%	3%	0%	118%	93%	5%	2%
猪名川町外	川西市 N=68, n=50)	0%	0%	0%	0%	136%	82%	14%	0%
	三田市 N=29, n=28)	0%	0%	0%	0%	104%	100%	0%	0%
	大阪市 N=63, n=28)	4%	0%	4%	0%	225%	61%	39%	0%

※複数回答 (外出先への交通手段)

※表示桁数の関係により、計算値が一致しないことがある

3. 普段の外出状況

■ 普段の移動における満足度等

- ① 普段の移動における満足度は、阿古谷地区や大島小学校区は満足度（満足+やや満足）が低い。
- ② バス交通における利便性の重要度は、北部地域に比べ、南部地域では「重要」との回答が多い。
- ③ 町内におけるバス交通の必要性は、65～74歳、75歳以上で「必要」との回答が多い。

① 普段の移動における満足度（住まいの地域別）

		満足	やや満足	どちらとも いえない	やや不満	不満	計
全体 (n=583)		25%	26%	22%	15%	12%	100%
北部地域	大島小学校区 (n=132)	24%	22%	26%	14%	14%	100%
	楊津小学校区 (n=134)	30%	23%	22%	14%	10%	100%
南部地域	阿古谷地区 (n=49)	24%	8%	24%	22%	20%	100%
	松尾台小学校区 (n=55)	24%	33%	18%	16%	9%	100%
	猪名川小学校区 (n=73)	21%	37%	15%	19%	8%	100%
	白金小学校区 (n=62)	24%	26%	21%	11%	18%	100%
	つつしが丘小学校区 (n=49)	31%	39%	16%	6%	8%	100%

② バス交通における利便性の重要度（住まいの地域別）

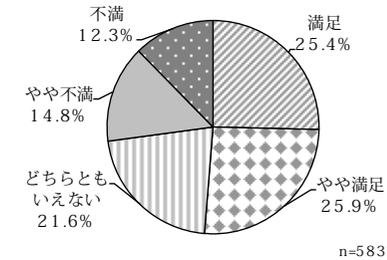
		重要	やや重要	どちらとも いえない	やや重要で ない	重要で ない	計
全体 (n=586)		40%	20%	17%	15%	7%	100%
北部地域	大島小学校区 (n=135)	36%	19%	19%	19%	7%	100%
	楊津小学校区 (n=135)	33%	18%	23%	15%	11%	100%
南部地域	阿古谷地区 (n=49)	45%	24%	14%	14%	2%	100%
	松尾台小学校区 (n=55)	38%	22%	15%	16%	9%	100%
	猪名川小学校区 (n=73)	45%	22%	19%	11%	3%	100%
	白金小学校区 (n=62)	47%	21%	10%	13%	10%	100%
	つつしが丘小学校区 (n=49)	47%	16%	18%	16%	2%	100%

③ 町内におけるバス交通の必要性（住まいの地域別）

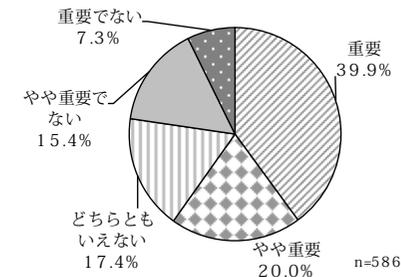
		必要	やや必要	どちらとも いえない	やや必要で ない	必要で ない	計
全体 (n=579)		54%	18%	13%	10%	4%	100%
20～54歳 (n=145)		50%	21%	12%	10%	7%	100%
55～64歳 (n=211)		48%	20%	18%	12%	2%	100%
65～74歳 (n=137)		59%	14%	12%	9%	6%	100%
75歳以上 (n=86)		66%	14%	8%	8%	3%	100%

※ 表示桁数の関係により、計算値が一致しないことがある

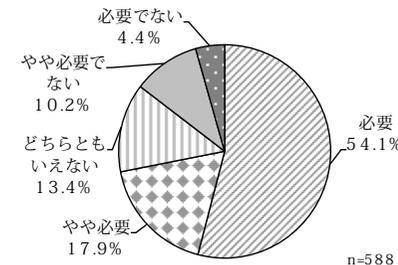
【参考】 普段の移動における満足度



【参考】 バス交通における利便性の重要度



【参考】 町内におけるバス交通の必要性



4. 町内におけるバスの利用状況

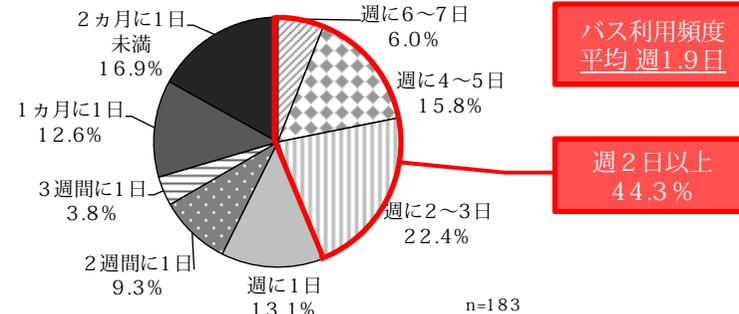
■ 普段のバスの利用状況

- ① バス利用の有無を年齢別に見ると、74歳以下の世代はバスを利用しない方（ほとんど利用しない＋利用したことがない）が70%以上を占める。
- ② バス利用者のうち、「主に路線バス」を利用する方は、64歳以下が約88～89%、65～74歳が約77%、75歳以上が約53%を占める。
- ③ バスを利用する方（よく利用する＋時々利用する）の利用頻度は、平均週2日の利用であり、週2日以上利用する方は約44%を占める。
- ④ コミュニティバス「ふれあいバス」や路線バスとコミュニティバスを同程度利用する方は、「買い物」目的が多く、路線バス利用者は、「通勤・通学」や「買い物」目的の利用が多い。

① バス利用の有無（年齢別）

	よく利用する	時々利用する	ほとんど利用しない	利用したことがない	計
全体 (n=597)	14%	17%	32%	37%	100%
20～54歳 (n=147)	8%	15%	35%	42%	100%
55～64歳 (n=214)	14%	14%	36%	36%	100%
65～74歳 (n=138)	11%	18%	33%	38%	100%
75歳以上 (n=90)	30%	22%	19%	29%	100%

③ バス利用頻度



② 町内バスの利用状況（年齢別）

	主に路線バス (阪急バス)	主にコミュニティバス (ふれあいバス)	路線バスとコミュニティバスの両方を同程度利用する	計
全体 (n=179)	78%	16%	7%	100%
20～54歳 (n=33)	88%	9%	3%	100%
55～64歳 (n=57)	89%	9%	2%	100%
65～74歳 (n=39)	77%	13%	10%	100%
75歳以上 (n=45)	53%	33%	13%	100%

④ バスの利用目的（利用する町内バス別）

	通勤・通学	買い物	通院	娯楽・レジャー	その他	計
全体 (n=181)	27%	35%	11%	18%	9%	100%
主に路線バス (阪急バス) (n=137)	31%	31%	7%	21%	9%	100%
主にコミュニティバス (ふれあいバス) (n=27)	7%	41%	30%	4%	19%	100%
路線バスとコミュニティバスの両方を同程度利用する (n=11)	18%	55%	18%	9%	0%	100%

※ 表示桁数の関係により、計算値が一致しないことがある

4. 町内におけるバスの利用状況

■ 普段のバスの利用状況

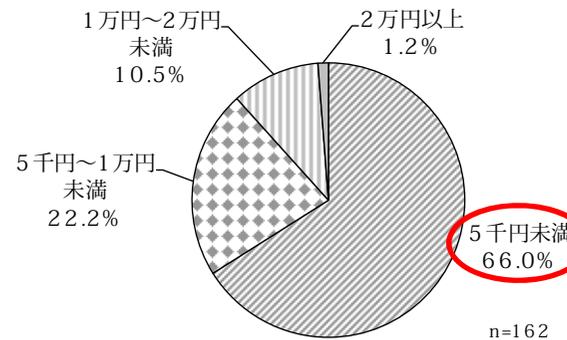
- ① バスを利用する方（よく利用する+時々利用する）の目的地は、「日生中央」が最も多く、次いで「阪急川西能勢口」、「イオンモール猪名川」である。
- ② 1ヵ月にかかるバスの交通費を見ると、「5千円未満」が最も多く、次いで「5千円～1万円未満」、「1万円～2万円未満」の順である。
- ③ 1ヵ月にかかるバスの交通費を地域別に見ると、地域による大きな差は見受けられない。

① バス利用時の目的地

		回答数	割合
猪名川町内	日生中央	108	62%
	イオンモール猪名川	10	6%
	ゆうあいセンター	2	1%
	総合公園前	2	1%
	図書館	1	1%
	今井病院	1	1%
	猪名川小学校区内	2	1%
	白金小学校区内	2	1%
	大島小学校区内	1	1%
	楊津小学校区内	1	1%
	阿古谷地区内	1	1%
	つつじが丘小学校区内	1	1%
川西市内	阪急川西能勢口	41	23%
	JR川西池田	1	1%
	清和台中央	1	1%
合計		175	100%

※ 出発地及び目的地のバス停を両方回答したものを対象に集計

② 1ヵ月にかかるバスの交通費



※ ②と③は、猪名川町内及び猪名川町と阪急川西能勢口を結ぶバスを対象

③ 1ヵ月にかかるバスの交通費（住まいの地域別）

	5千円未満	5千円～1万円未満	1万円～2万円未満	2万円以上	計
全体 (n=162)	66%	22%	10%	1%	100%
北部地域+阿古谷地区 (n=69)	72%	16%	9%	3%	100%
南部地域 (阿古谷地区以外) (n=85)	61%	26%	13%	0%	100%

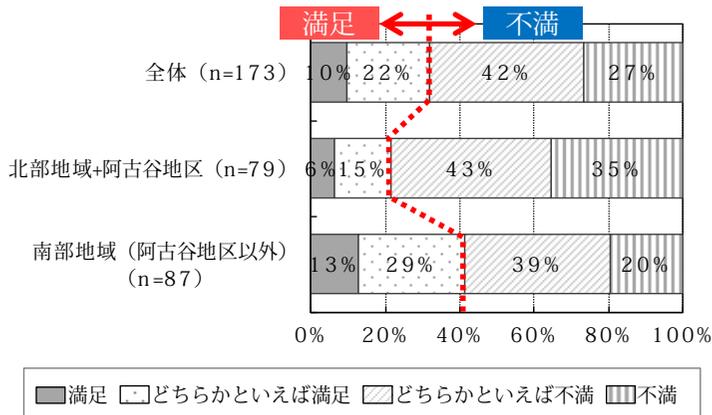
※ 表示桁数の関係により、計算値が一致しないことがある

4. 町内におけるバスの利用状況

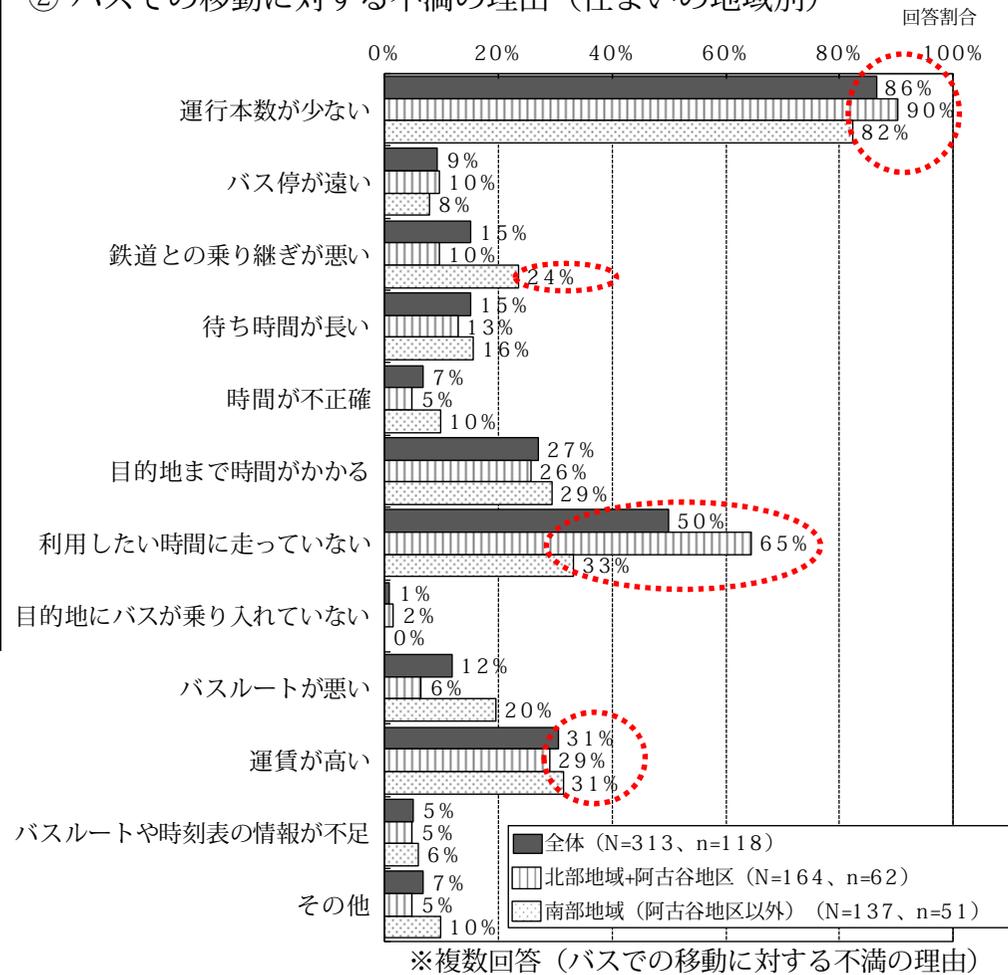
■ 普段のバスの利用状況

- ① バスでの移動に対する満足度を見ると、「不満（不満+やや不満）」が約69%であり、地域別では北部地域+阿古谷地区で不満の割合が高い。
- ② 不満の理由は、「運行本数が少ない」が最も多く、次いで「利用したいときに走っていない」、「運賃が高い」の順である。
地域別に見ると、北部地域+阿古谷地区では「利用したい時間に走っていない」が南部地域（阿古谷地区除く）よりも割合が高く、南部地域（阿古谷地区除く）では、「鉄道との乗り継ぎが悪い」が北部地域+阿古谷地区と比べ割合が高い。

① バスでの移動に対する満足度（住まいの地域別）



② バスでの移動に対する不満の理由（住まいの地域別）



※複数回答（バスでの移動に対する不満の理由）

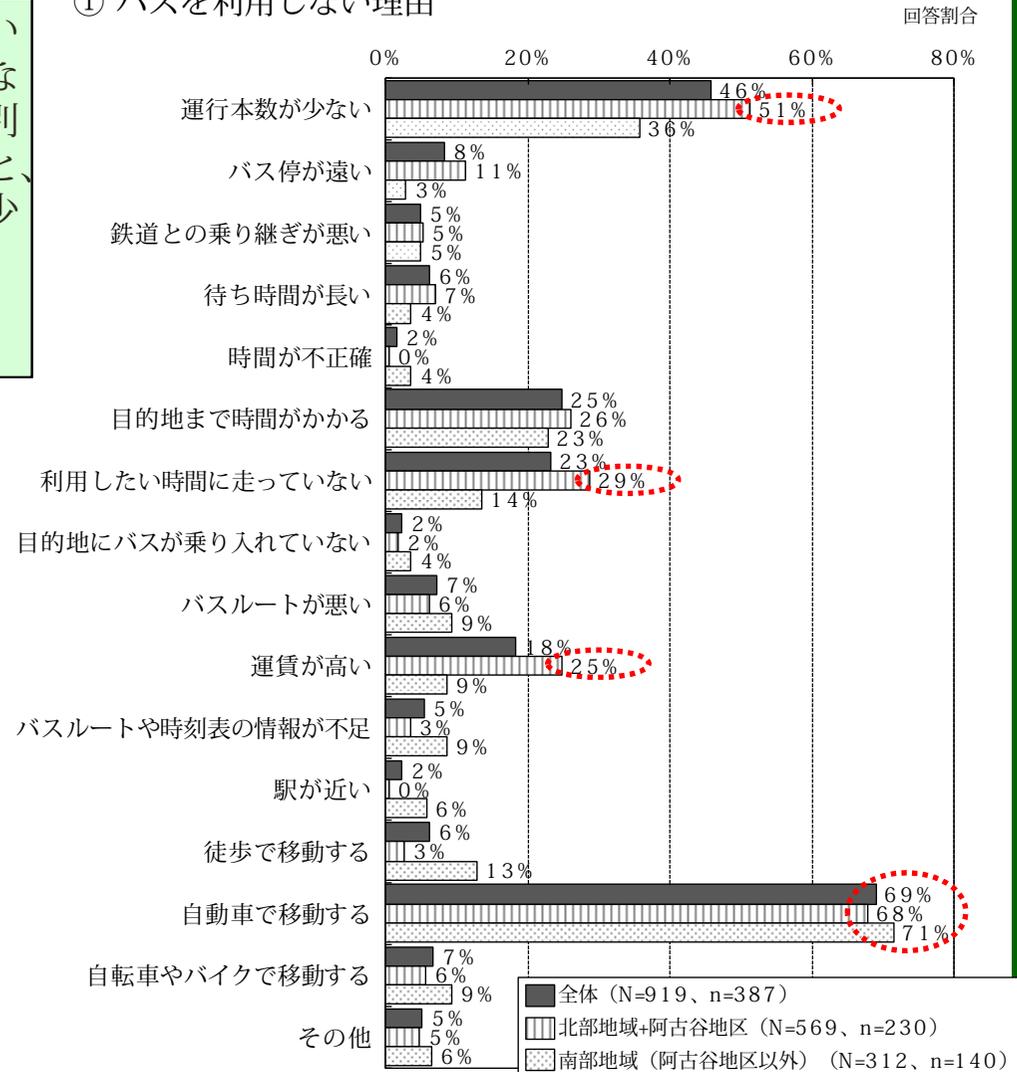
※ 表示桁数の関係により、計算値が一致しないことがある

4. 町内におけるバスの利用状況

■ 普段のバスの利用状況

① バスを利用しない方（ほとんど利用しない＋利用したことがない）のバスを利用しない理由は、「自動車で移動する」が地域別で見ても最も多い。また、地域別で見ると、北部地域＋阿古谷地区では「運行本数が少ない」、「利用したいときに走っていない」、「運賃が高い」が南部地域に比べ、割合が高い。

① バスを利用しない理由



※ 複数回答（バスを利用しない理由）

※ 表示桁数の関係により、計算値が一致しないことがある

4. 町内におけるバスの利用状況

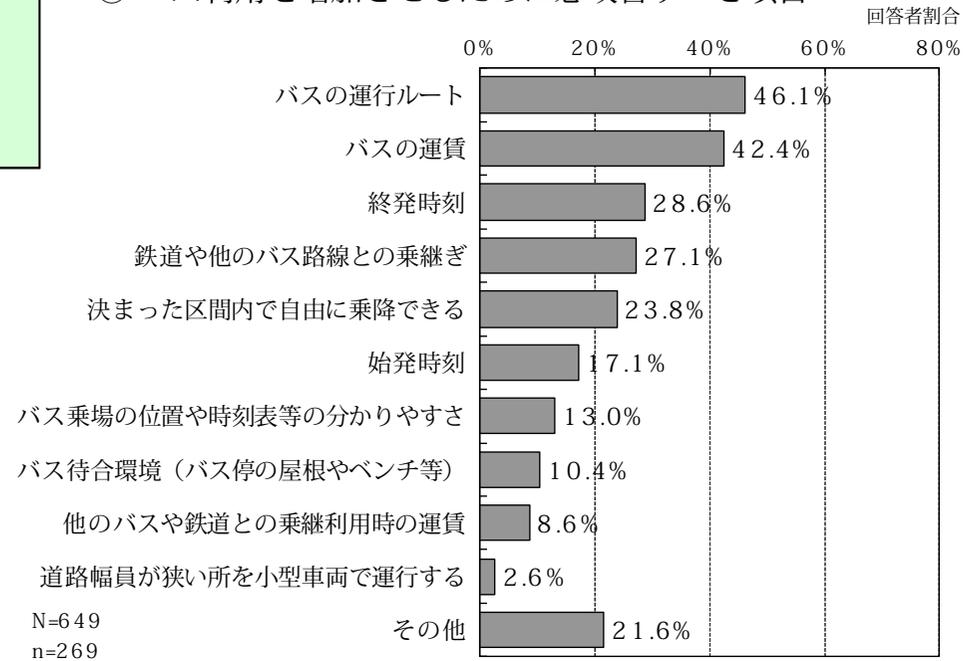
■ サービス改善によるバス利用意向

- ① バスサービスが改善された場合におけるバス利用の変化をバス利用状況別に見ると、バスをよく利用する方は、バス利用の増加が見込まれる。バスを利用しない方や利用したことがない方は、サービスが改善されても、「今とほとんど変わらない」との回答が多い。
- ② バス利用を増加させるために必改善すべき項目は、「バスの運行ルート」が最も多く、次いで「バスの運賃」、「終発時刻」、「鉄道や他のバス路線との乗り継ぎ」、「決まった区間内で自由に乗降できる」の順である。

① バスサービスが改善された場合におけるバス利用の変化 (バス利用状況別)

	今よりも もっと乗る ようになる	今より少し だけ乗る ようになる	今とほとん ど変わら ない	わからな い	計
全体 (n=569)	22%	28%	36%	14%	100%
よく利用する (n=82)	59%	21%	20%	1%	100%
時々利用する (n=98)	38%	34%	20%	8%	100%
ほとんど利用しない (n=182)	10%	35%	43%	12%	100%
利用したことがない (n=204)	11%	22%	42%	25%	100%

② バス利用を増加させるために必改善すべき項目



※ 複数回答

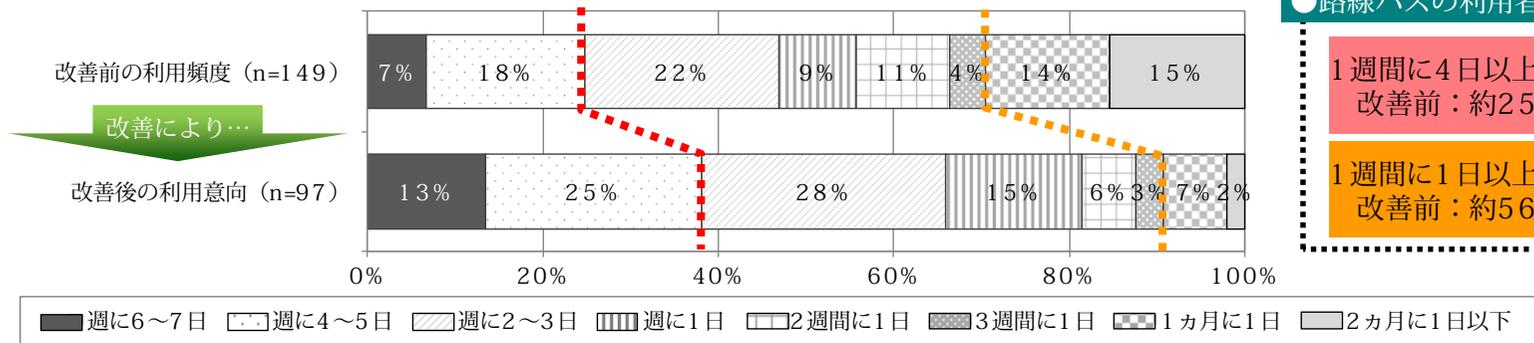
※ 表示桁数の関係により、計算値が一致しないことがある

4. 町内におけるバスの利用状況

■ サービス改善によるバス利用意向

- ① バスサービスが改善された場合における利用頻度の変化を路線バス利用者（主に路線バス+路線バスとコミュニティバスの両方を同じ程度利用）で見ると、「週に4日以上」の割合が約1割増加している。
- ② コミュニティバス利用者（主にコミュニティバス+路線バスとコミュニティバスの両方を同じ程度利用）の場合は、「週に4日以上」の割合が約3割増加している。

① サービス改善された場合における利用頻度の変化
（主に路線バス+路線バスとコミュニティバスの両方を同じ程度利用）

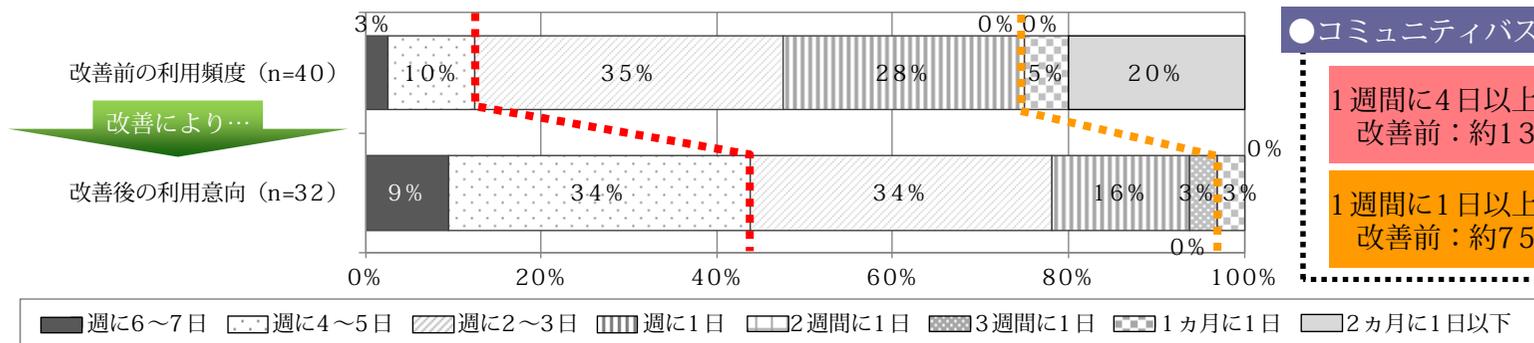


● 路線バスの利用者

1週間に4日以上
改善前：約25% ⇒ 改善後：約38%

1週間に1日以上
改善前：約56% ⇒ 改善後：約81%

② サービス改善された場合における利用頻度の変化
（主にコミュニティバス+路線バスとコミュニティバスの両方を同じ程度利用）



● コミュニティバス「ふれあいバス」の利用者

1週間に4日以上
改善前：約13% ⇒ 改善後：約44%

1週間に1日以上
改善前：約75% ⇒ 改善後：約94%

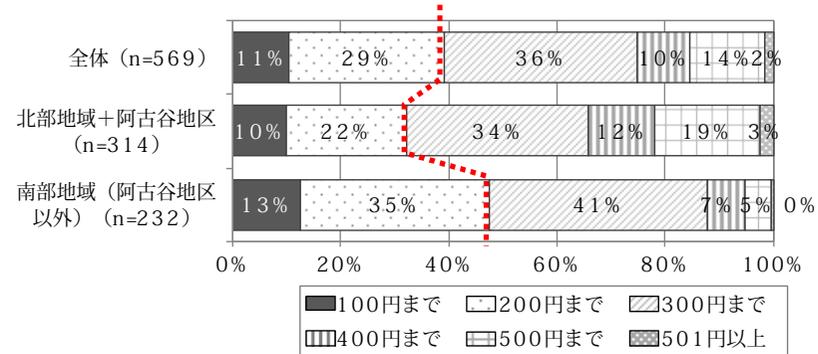
※ 表示桁数の関係により、計算値が一致しないことがある

4. 町内におけるバスの利用状況

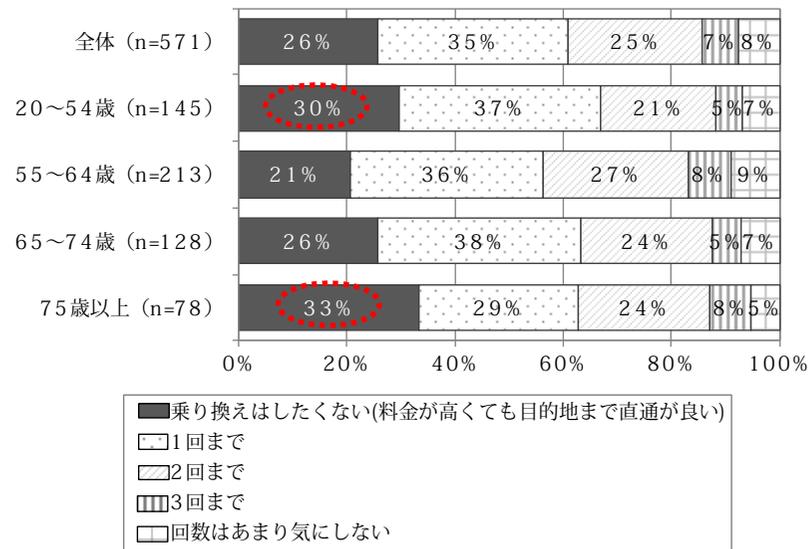
■ 料金や乗り継ぎ利用に対する意向

- ① 利用可能な運賃の上限金額を地域別に見ると、200円以上の方（300円まで以上を回答）の割合は、北部地域のほうが高い。
- ② バス利用時における乗り換え可能な回数を年齢別に見ると、20～54歳や75歳以上では「乗り換えはしたくない(料金が高くても目的地まで直通が良い)」の割合が他の世代に比べて高い。
- ③ バスの乗り継ぎ拠点が整備される際に望む項目は、「バス停の屋根やベンチ等の設置」が最も多く、次いで「自家用車や自転車からバスへ乗り換え可能な駐車場・駐輪場の確保」である。

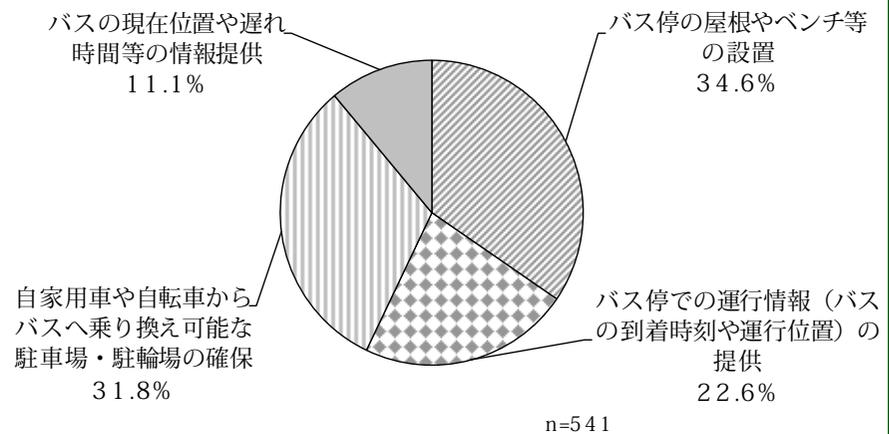
① 利用可能な運賃の上限金額（住まいの地域別）



② バス利用時における乗り換え可能な回数



③ バスの乗り継ぎ拠点が整備される際に望む項目



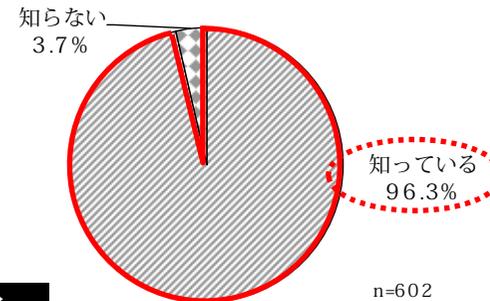
※ 表示桁数の関係により、計算値が一致しないことがある

4. 町内におけるバスの利用状況

■ コミュニティバス「ふれあいバス」の認知状況

- ① コミュニティバス「ふれあいバス」の認知度は、「知っている」が約96%を占める。

① コミュニティバス「ふれあいバス」の認知度



■ 「hanicaはんきゅうグランドパス65」の認知状況

- ① 65歳以上の方で「hanicaはんきゅうグランドパス65」の認知度を見ると、「知らない」が約57%を占める。利用する町内バス別で見ると、コミュニティバス「ふれあいバス」利用者の半数が「知らない」と回答している。
- ② 「hanicaはんきゅうグランドパス65」の利用状況を利用する町内バス別で見ると、コミュニティバス「ふれあいバス」での利用が路線バスと比べて低い。

① 「hanicaはんきゅうグランドパス65」の認知度

	知っている	知らない	計
全体 (n=225)	43%	57%	100%
路線バス利用者 (n=63)	65%	35%	100%
コミュニティバス「ふれあいバス」利用者 (n=30)	50%	50%	100%

② 「hanicaはんきゅうグランドパス65」の利用状況

	持っている がよく利用 する	持っている があまり 利用しな い	持ってい ない	計
全体 (n=220)	13%	2%	85%	100%
路線バス利用者 (n=60)	32%	2%	67%	100%
コミュニティバス「ふれあいバス」利用者 (n=29)	14%	7%	79%	100%

高齢者向け阪急バス全線フリー定期券 「hanicaはんきゅうグランドパス65」

65歳以上の方を対象とした、阪急バス・阪急田園バス・阪神バスのすべての区間（※一部適用除外区間あり）で利用可能な交通系ICカードの定期券です。

適用期間1年（40,000円）を購入した場合、1日あたり約110円となります。

使い方は、乗る時と降りる時にICカード読取機にタッチ！！



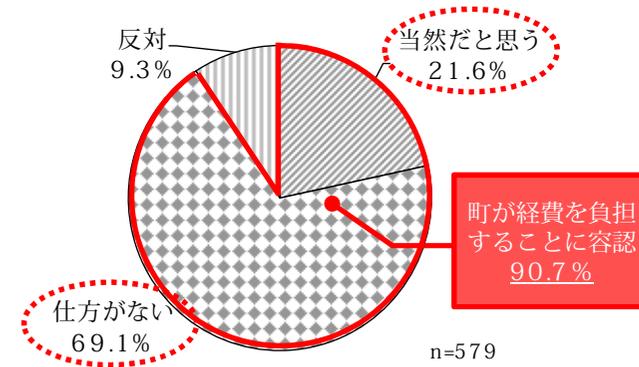
出典：阪急バス株式会社HP

※ 表示桁数の関係により、計算値が一致しないことがある

5. 公共交通の税負担に関する意識

- ① バスを維持・充実させるために、町が経費を負担することについては、90%以上が容認している。
- ② コミュニティバス「ふれあいバス」を維持していくための方法は、約半数が「可能な限り町が負担すべき」と回答。
「可能な限り町が負担すべき」の割合が高い地域は大島小学校区とつつじが丘小学校区、「利用者の運賃を値上げすべき」の割合が高い地域は白金小学校区と猪名川小学校区である。

① バスを維持・充実させるために、町が経費を負担することについて



② コミュニティバス「ふれあいバス」を維持していくための方法（住まいの地域別）

	便数や路線を充実させるために、利用者の運賃の値上げをせずに町が財政負担すべき	現状の路線や便数を維持するために、利用者の運賃の値上げをせずに町が財政負担すべき	便数や路線を充実させるために、利用者の運賃を値上げすべき	現状の路線や便数を維持するために、利用者の運賃を値上げすべき	町財政負担を下げるために、路線の縮小や減便をすべき	計
全体	24%	21%	17%	23%	15%	100%
大島小学校区	26%	27%	23%	15%	9%	100%
楊津小学校区	24%	19%	27%	15%	16%	100%
阿古谷地区	21%	25%	25%	21%	8%	100%
松尾台小学校区	16%	31%	24%	14%	14%	100%
猪名川小学校区	17%	14%	21%	26%	21%	100%
白金小学校区	18%	16%	24%	24%	18%	100%
つつじが丘小学校区	20%	33%	20%	9%	18%	100%

	可能な限り町が負担すべき	利用者の運賃を値上げすべき	路線の縮小や減便もやむを得ない	計
全体 (n=530)	45%	40%	15%	100%
大島小学校区 (n=128)	53%	38%	9%	100%
楊津小学校区 (n=128)	43%	41%	16%	100%
阿古谷地区 (n=48)	46%	46%	8%	100%
松尾台小学校区 (n=49)	47%	39%	14%	100%
猪名川小学校区 (n=70)	31%	47%	21%	100%
白金小学校区 (n=62)	34%	48%	18%	100%
つつじが丘小学校区 (n=45)	53%	29%	18%	100%

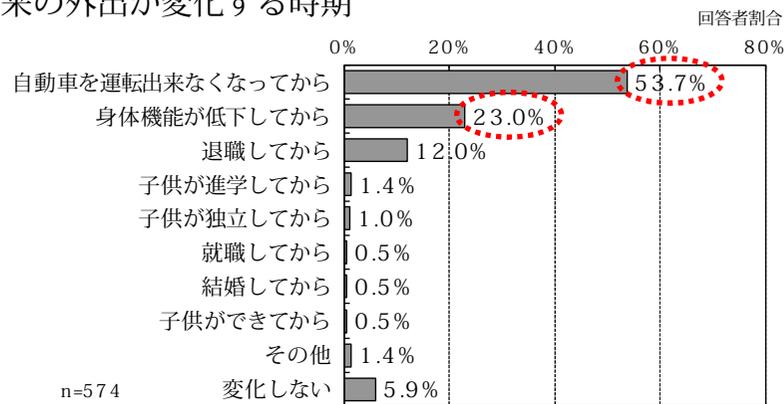
※ 表示桁数の関係により、計算値が一致しないことがある

6. 将来における外出について

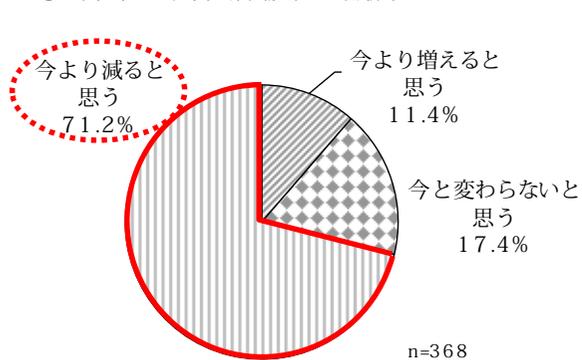
■ 将来における外出について

- ① 将来の外出が変化する時期は、「自動車を運転できなくなってから」、「身体機能が低下してから」が多い。
- ② 将来の外出頻度の増減は、「今よりも減少する」が約71%を占める。
- ③ 将来の外出目的は、「買い物」が約50%と最も多く、次いで「通院」が約35%を占める。
- ④ 将来の主な外出先は、「猪名川町内」が約77%を占め、「イオンモール猪名川」が約49%を占める。

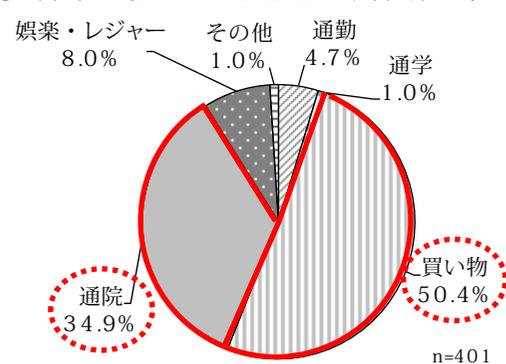
① 将来の外出が変化する時期



② 将来の外出頻度の増減



③ 将来に多くなると思う外出目的



④ 将来の主な外出目的

主な外出先	回答数	割合
猪名川町内	194	77%
イオンモール猪名川	123	49%
日生中央サピエ	48	19%
その他猪名川町内	23	9%
近隣市町	36	14%
川西市	33	13%
宝塚市	1	0%
三田市	1	0%
篠山市	1	0%
その他兵庫県内	6	2%
神戸市	4	2%
西宮市	1	0%
その他兵庫県内 (未回答)	1	0%
その他大阪府内	13	5%
大阪市	12	5%
その他大阪府内 (未回答)	1	0%
その他府県 (未回答)	2	1%
計	251	100%

※ 表示桁数の関係により、計算値が一致しないことがある

6. 将来における外出について

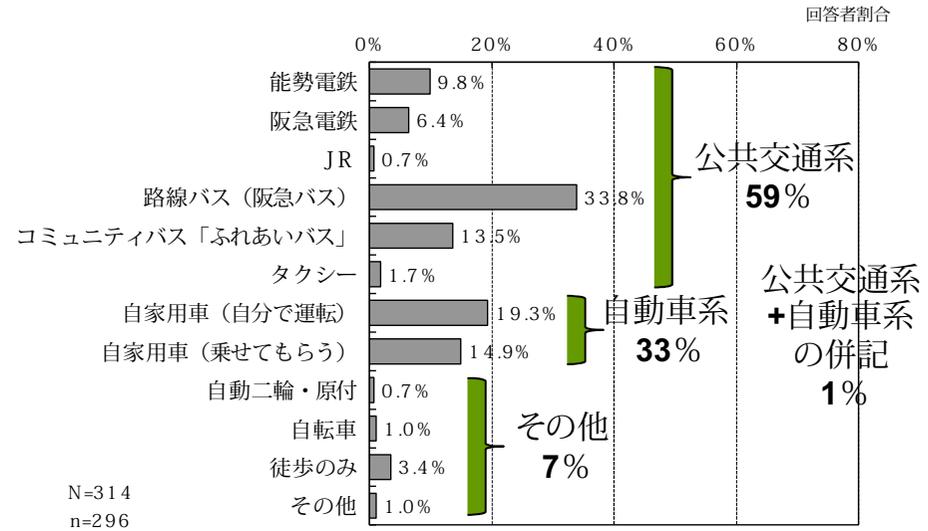
■ 将来における外出について

- ① 将来の外出時の交通手段は、現在の主な外出先への交通手段と比べ、「公共交通系」の利用が増加し、約59%を占める。現在における外出時の交通手段と比べ、「公共交通系」の利用が増加している（現在の平日の公共交通系利用割合：18%、現在の平日の公共交通系利用割合：12%）。
- ② 自動運転車両による公共交通の利用意向を年齢別に見ると、75歳以上では「利用したい（ぜひ利用したいと思う+やや利用したいと思う）」が他の世代と比べ低い。
- ③ 自家用車中心の生活から公共交通中心の生活への転換意向は、「将来、高齢になったらできると思う」が約59%を占める。

② 自動運転車両による公共交通の利用意向

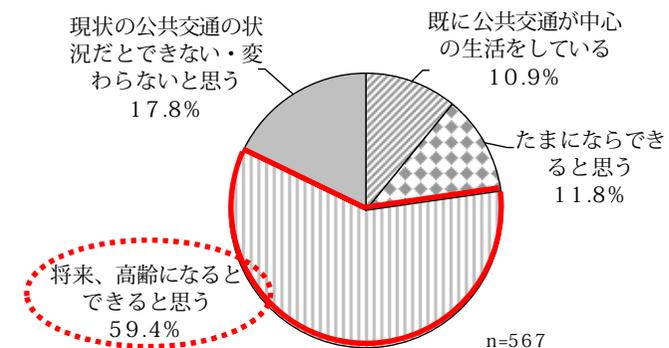
	ぜひ利用 したいと思 う	やや利用 したいと思 う	あまり利 用したいと は思わな い	全く利用し たいとは思 わない	わからな い	計
全体 (n=573)	26%	28%	15%	5%	25%	100%
20~54歳 (n=143)	23%	33%	16%	6%	22%	100%
55~64歳 (n=211)	28%	33%	15%	2%	22%	100%
65~74歳 (n=134)	26%	25%	12%	6%	31%	100%
75歳以上 (n=77)	25%	14%	21%	8%	32%	100%

① 将来の外出時の交通手段



※複数回答

③ 自家用車中心の生活から公共交通中心の生活への転換意向



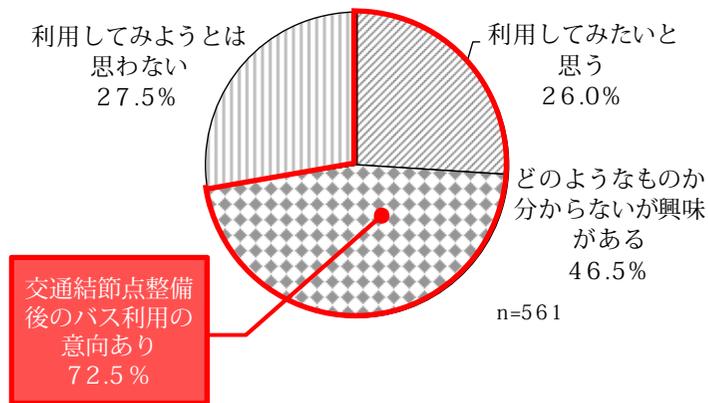
※ 表示桁数の関係により、計算値が一致しないことがある

7. 道の駅いながわ機能拡大プロジェクトについて

■道の駅移転・拡充後におけるバス交通の利用意向

- ① 機能が拡大された道の駅に交通結節点が整備された場合のバス交通の利用意向は、「どのようなものか分からないが興味がある」が約47%、「利用してみたいと思う」が約26%を占め、交通結節点整備後のバス利用の意向ありが70%以上を占める。
- ② 機能が拡大された道の駅に交通結節点が整備された場合のバス交通の利用意向を町内のバス利用別に見ると、コミュニティバス「ふれあいバス」利用者の「利用してみたいと思う」の割合が、路線バス利用者に比べて高い。

① 機能が拡大された道の駅に交通結節点が整備された場合のバス交通の利用意向

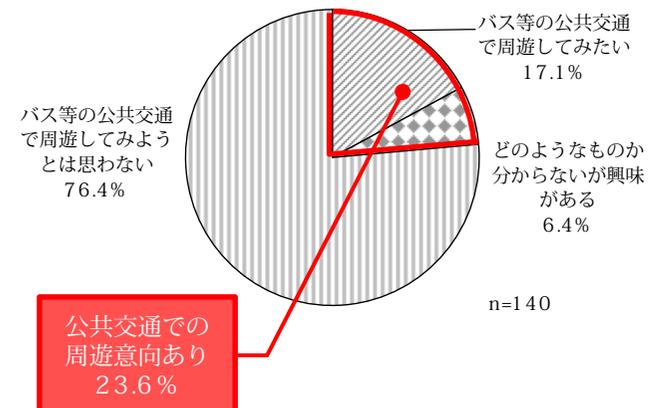


② 機能が拡大された道の駅に交通結節点が整備された場合のバス交通の利用意向（町内のバス利用別）

	利用してみたいと思う	どのようなものか分からないが興味がある	利用してみようとは思わない	計
全体 (n=561)	26%	47%	27%	100%
路線バス利用者 (n=132)	37%	49%	14%	100%
コミュニティバス「ふれあいバス」利用者 (n=35)	66%	29%	6%	100%

【参考】道の駅ヒアリング調査結果
(※道の駅来訪者を対象)

- 機能が拡大された道の駅を拠点に町内の観光スポットをバス等の公共交通を利用した周遊の意向



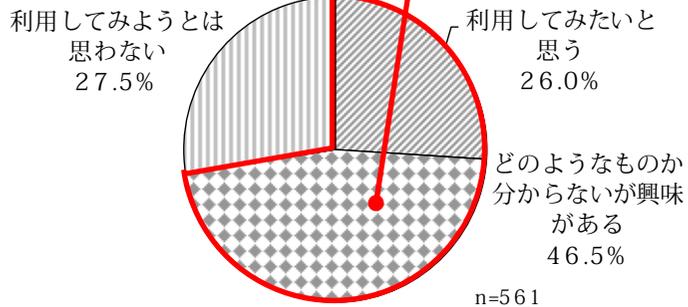
※ 表示桁数の関係により、計算値が一致しないことがある

7. 道の駅いながわ機能拡大プロジェクトについて

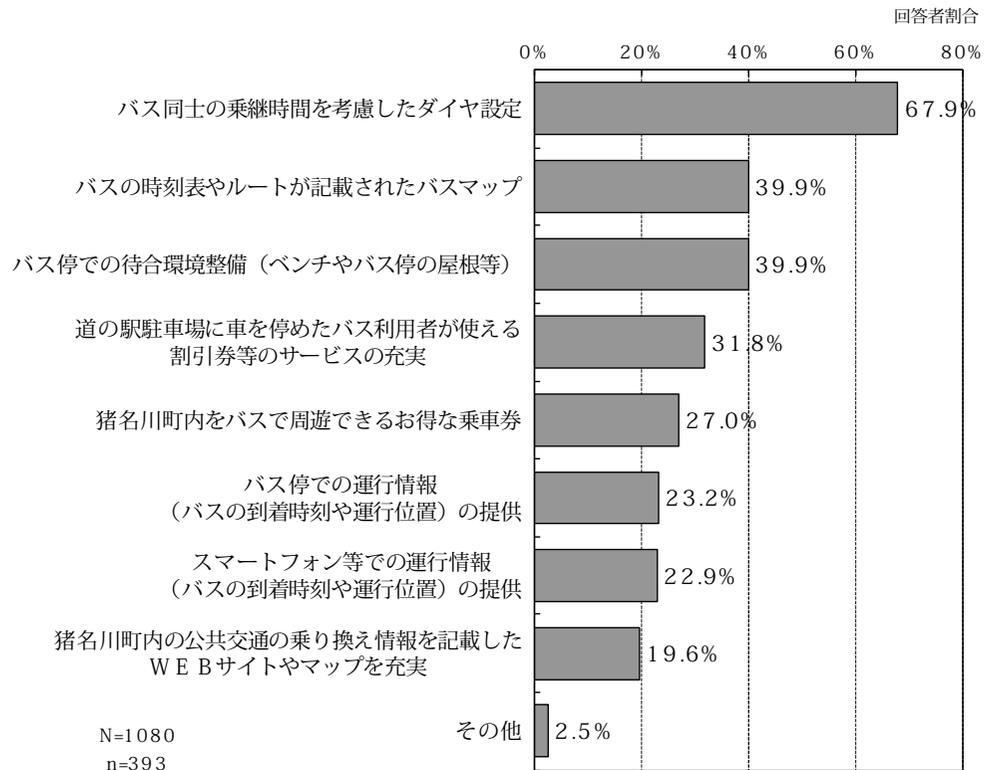
■道の駅移転・拡充後におけるバス交通の利用意向

- ① 移転後の道の駅を交通結節点とする場合に必要なものを見ると、「バス同士の乗継時間を考慮したダイヤ設定」が最も多く、次いで「バスの時刻表やルートが記載されたバスマップ」と「バス停での待合環境整備（ベンチやバス停の屋根等）」、「道の駅駐車場に車を停めたバス利用者が使える割引券等のサービスの充実」の順である。

【再掲】 機能が拡大された道の駅に交通結節点が整備された場合のバス交通の利用意向



① 移転後の道の駅を交通結節点とする場合に必要なもの



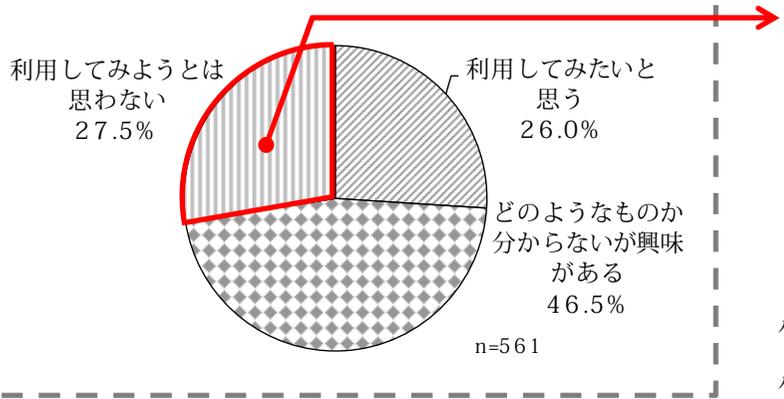
※ 表示桁数の関係により、計算値が一致しないことがある

7. 道の駅いながわ機能拡大プロジェクトについて

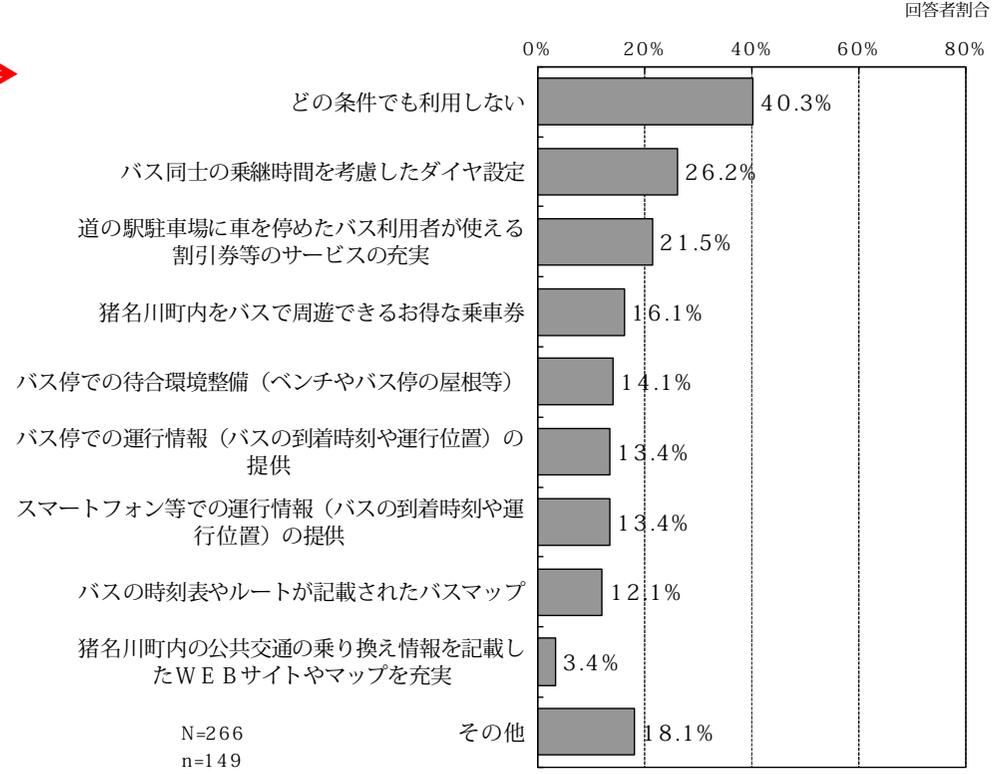
■道の駅移転・拡充後におけるバス交通の利用意向

① どのようなことを取組むことで、移転後の道の駅を交通結節点としたバス交通を利用しようと思うかは、「どの条件でも利用しない」が最も多く、次いで「バス同士の乗継時間を考慮したダイヤ設定」、「道の駅駐車場に車を停めたバス利用者が使える割引券等のサービスの充実」の順である。

【再掲】機能が拡大された道の駅に交通結節点が整備された場合のバス交通の利用意向



①どのようなことを取組むことで、移転後の道の駅を交通結節点としたバス交通を利用しようと思うか



※ 表示桁数の関係により、計算値が一致しないことがある

7. まとめ

■ 普段の外出状況（平日）

- 外出目的を年齢別に見ると、「通勤・通学」は20～54歳が約5割、「買い物」は65～74歳が約6割を占める。
- 主な外出先を見ると、「猪名川町内」が約7割%を占める。内訳をみると、「イオンモール猪名川」が約4割と最も多く、次いで「日生中央サピエ」が約2割を占める。町外は大阪市、川西市の順でともに1割未満である。
- 外出目的を主な外出先別に見ると、「イオンモール猪名川」や「日生中央サピエ」では買い物の割合が高く、町外の「大阪市」や「川西市」では通勤・通学の割合が高い。
- 外出先への交通手段を見ると、自動車系（自家用車（自分で運転+乗せてもらう））が7割以上、公共交通系が約2割を占める。
- 外出先への交通手段を主な外出先別に見ると、猪名川町内や川西市は自家用車による移動が多く、大阪市は公共交通による移動が多く占める。

■ 普段の外出状況（休日）

- 外出目的を年齢別に見ると、「買い物」の外出が各世代において最も多く占める。
- 主な外出先を見ると、「猪名川町内」が約7割を占める。内訳をみると、「イオンモール猪名川」が約4割と最も多く、次いで「日生中央サピエ」が約2割%を占める。町外は川西市、三田市、大阪市の順でともに1割未満である。
- 外出目的を主な外出先別に見ると、「イオンモール猪名川」や「日生中央サピエ」をはじめ、町外の「川西市」、「三田市」や「大阪市」ともに買い物の割合が高い。
- 外出先への交通手段を見ると、自動車系（自家用車(自分で運転+乗せてもらう)）が約8割を占め、自動車系の分担率が平日よりも高い。

外出先への交通手段を主な外出先別に見ると、猪名川町内は約63%～約93%が自動車による移動で、町外では、川西市、三田市、大阪市ともに、自動車による移動が多く占める。

7. まとめ

■ 普段の外出状況（普段の移動における満足度）

- 普段の移動における満足度は、阿古谷地区や大島小学校区は満足度（満足＋やや満足）が低い。
- バス交通における利便性の重要度は、北部地域に比べ、南部地域では「重要」との回答が多い。
- 町内におけるバス交通の必要性は、65歳以上の方が他の世代に比べ、「必要」との回答が多い。

■ 町内におけるバスの利用状況（普段のバスの利用状況）

- バス利用の有無を年齢別に見ると、74歳以下の世代はバスを利用しない方（ほとんど利用しない＋利用したことがない）が7割以上を占める。
- バスを利用する方（よく利用する＋時々利用する）の利用頻度は、平均週2日の利用であり、週2日以上利用する方は約44%を占める。
- コミュニティバス「ふれあいバス」や路線バスとコミュニティバスを同程度利用する方は、「買い物」目的が多く、路線バス利用者は、「通勤・通学」や「買い物」目的の利用が多い。
- バスを利用する方（よく利用する＋時々利用する）の目的地は、「日生中央」が最も多く、次いで「阪急川西能勢口」、「イオンモール猪名川」である。
- バスでの移動に対する満足度を見ると、「不満（不満＋やや不満）」が約7割を占め、地域別では北部地域＋阿古谷地区で不満の割合が高い。
- 不満の理由は、「運行本数が少ない」が最も多く、次いで「利用したいときに走っていない」、「運賃が高い」の順である。
- バスを利用しない方（ほとんど利用しない＋利用したことがない）のバスを利用しない理由は、「自動車移動する」が地域別で見ても最も多い。また、地域別で見ると、北部地域＋阿古谷地区では「運行本数が少ない」、「利用したいときに走っていない」、「運賃が高い」が南部地域に比べ、割合が高い。

7. まとめ

■ 町内におけるバスの利用状況（サービス改善による利用意向）

- バスサービスが改善された場合におけるバス利用の変化をバス利用状況別に見ると、バスをよく利用する方は、バス利用の増加が見込まれる。バスを利用しない方や利用したことがない方は、サービスが改善されても、「今とほとんど変わらない」との回答が多い。
- バス利用を増加させるために必改善すべき項目は、「バスの運行ルート」が最も多く、次いで「バスの運賃」、「終発時刻」、「鉄道や他のバス路線との乗り継ぎ」、「決まった区間内で自由に乗降できる」の順である。
- サービスが改善された場合における利用頻度を現在の利用頻度と比較すると、「週に4日以上」の割合が路線バス利用者では約1割増加、コミュニティバス利用者では約3割増加している。

■ 町内におけるバスの利用状況（料金や乗り継ぎ利用に対する意向）

- 利用可能な運賃の上限金額を地域別に見ると、200円以上の方（300円まで以上を回答）の割合は、北部地域のほうが高い。
- バス利用時における乗り換え可能な回数を年齢別に見ると、20～54歳や75歳以上では「乗り換えはしたくない(料金が高くても目的地まで直通が良い)」の割合が他の世代に比べて高い。

■ 町内におけるバスの利用状況（コミュニティバス「ふれあいバス」の認知状況）

- コミュニティバス「ふれあいバス」の認知度は、「知っている」が9割以上を占める。

■ 町内におけるバスの利用状況（「hanicaはんきゅうグランドパス65」の認知状況）

- 65歳以上の方で「hanicaはんきゅうグランドパス65」の認知度を見ると、「知らない」が約57%を占める。利用する町内バス別で見ると、コミュニティバス「ふれあいバス」利用者の半数が「知らない」と回答している。

7. まとめ

■ 公共交通の税負担に関する意識

- バスを維持・充実させるために、町が経費を負担することについては、9割以上が容認し、コミュニティバスの維持していくための方法は、半数が可能な限り町が負担すべきと回答している。

■ 将来における外出について

- 将来の外出が変化する時期は、「自動車を運転できなくなってから」、「身体機能が低下してから」が多い。
- 将来の外出頻度の増減は、「今よりも減少する」が約7割を占める。
- 将来の外出目的は、「買い物」が約5割で最も多く、次いで「通院」が約4割を占める。
- 将来の主な外出先は、「猪名川町内」が約8割を占め、「イオンモール猪名川」が約5割を占める。
- 将来の外出時の交通手段は、現在の主な外出先への交通手段と比べ、「公共交通系」の利用が増加し、約6割を占める。
- 自家用車中心の生活から公共交通中心の生活への転換意向は、「将来、高齢になったらできると思う」が約6割を占める。

■ 道の駅いながわ機能拡大プロジェクトについて

- 機能が拡大された道の駅に交通結節点が整備された場合のバス交通の利用意向は、交通結節点整備後のバス利用の意向あり（利用してみたいと思う＋どのようなものか分からないが興味がある）が7割以上を占める。
- 交通結節点整備後のバス利用の意向ある方が、移転後の道の駅を交通結節点とする場合に必要なものを見ると、「バス同士の乗継時間を考慮したダイヤ設定」が最も多く、次いで「バスの時刻表やルートが記載されたバスマップ」と「バス停での待合環境整備（ベンチやバス停の屋根等）」である。
- 交通結節点整備後のバス利用の意向ない方が、どのようなことを取組むことで、移転後の道の駅を交通結節点としたバス交通を利用しようと思うかは、「どの条件でも利用しない」が最も多い。